

日本発ドイツ便り：挨拶は魔法の言葉？

ドイツでは、挨拶する機会が多いです。特に面識のない人に挨拶する頻度は日本より圧倒的に高いと思います。観光客だって例外ではありません。お店に入るとき、お店から出るとき。スーパーマーケットでだって、ちゃんとレジの人に挨拶。レストランでもホテルでも劇場でも、バスの運転手さんにも。

一般的な挨拶としては、

Guten Morgen (グーテン・モルゲン：おはようございます)

Guten Tag (グーテン・ターク：こんにちは)

Guten Abend (グーテン・アーベント：こんばんは)

バイエルンとかオーストリアなら一日中

Grüss Gott! (グリュース・ゴット) とか Servus! (ゼルヴス) で大丈夫。

もちろん一番簡単な

Hallo (ハロー) という挨拶も一般的です。英語の綴りは Hello になりますが、ドイツ語では Hallo です。返答としては、相手に言われた通り、返せばよいのです。

別れ際には

Auf Wiedersehen (アウフ・ヴィーダーゼーエン：さようなら) とか、もっと簡単に

Tschüss (チュース!) とか Ciao (チャオ) とか。という言い方も。(地域によっては若者の言葉?)

こちらも返答としては、相手に言われた通り、返せばよいのです。

季節限定としては、

Frohe Ostern (フロエ・オスターン) イースターの頃の挨拶。

Frohe Weihnachten (フロエ・ヴァイナハテン) クリスマスの挨拶。

Guten Rutsch (グーテン・ルッチ) 年末に「よいお年を！」

週末だったら

Schönes Wochenende (シェーネス・ヴォツヘンエンデ：素敵な週末を!)

これもまた返答としては、相手に言われた通り、返せばよいのです。もしくは

Danke gleichfalls! (ダンケ・グライヒファルス：ありがとう、あなたもね。) という答え方もあります。

くしゃみをすれば、近くにいる人が

Gesundheit! (ゲズントハイト：直訳すると「健康」ですが「お大事に！」くらいの意味です。) と声をかけてくれることが多いです。言われたらちゃんとその人の顔を見て、Danke (ダンケ!：ありがとう) と返事しましょう。反対に、だれかがくしゃみをしてたら Gesundheit! と声をかけてあげてください。

ドイツでは、全然知らない人に話しかけられたり、人の会話に周りの人が勝手に意見を述べたりすることは、そう珍しいことではないのです。日本で同じことをしたら、間違いなく、びっくりされたり、不審に思われると思いますが、ドイツでは全然平気。私もいつの間にか、カフェの隣の席の人たちの会話に相槌うったりするのにも随分慣れました。(日本ではやらないように気を付けています。でも大阪だったらアリかな?◎)

Danke (ありがとう) と言われたら、必ず Bitte (ビットテ：どういたしまして) と返しましょう。

ドイツでは、挨拶されたら、必ず相手の顔(目)を見て挨拶を返す。が大原則です。ちゃんと言葉に出すことが重要。とにかく無言は失礼です。

日本はお互い知り合いの場合を除き、一方通行の挨拶が多いと思いますが…。(お店などを想定しています)

が、たしかに「いらっしゃいませ」と言われたら、返答の言葉がないのも事実です) いつも泊まる宿で、こんな相談を受けたことがあります。

「挨拶をしたときに、日本人の女の人は(挨拶の返答はないにしろ)笑顔を返してくれる人が多いけど、反対に男の人は無言で、なんだか怒ったような、困ったような顔する人が多いのはなぜ？」

ここは言葉がわからないとか、シャイだから、とかそんなことは問題じゃなく、言葉が出てこなければ、返答は日本語でだって、カタカナ発音だって構いません。日本式に、無言で会釈というのは、まず通じませんので、相手の目を見て、言葉で挨拶を返しましょう！

他にも理由を色々考えましたが、多分日本の「お客様は神様」に慣れてしまって、お客の方が偉い。みたいな考え方があるからなのかもしれません。例えば日本発着の飛行機に乗っていて、客室乗務員に「何飲みますか？」と聞かれて、ちゃんと please という言葉をつける人、どうぞ、と渡されて thank you っという人、残念なことに、ほとんど聞いたことないです。

でもドイツでは、考え方が全く違って、顧客とプロのサービスを提供する人(お店の販売員であったり、レストランのウェ이터であったり、ホテルで働く人であったりします。)は、ちょっと説明するのが難しいのですが、主従の関係になる、というよりはどちらかという対等なのです。

もう一つの日本との大きな違いは「タダのものはない」という原則。プロのサービス=立派な付加価値なので、高級なレストラン・お店・ホテルになるほど、働く人の知識や技能であったり、サービスのレベルが高くなります(なので自分ができないことを代行してもらうお礼、という意味で、チップという習慣があるのだと思います)。

加えてサービスを提供する側にも顧客を選ぶ権利がある、というか顧客にも暗黙の義務があるんです。それは例えば身なりであったり、立ち居振る舞いであったり、要は、その場にふさわしい顧客であること。

(まあ、もともとが階層社会なので、簡単に要約できるほど単純な問題ではないですし、私も表層的に理解・体感している程度ですので、悪しからず。また、それが良いとか悪いとかいうことではなく、ヨーロッパってそういう所なんだ、という前提で考えると、色々納得できることも多いわけです。☺)



一度泊まる機会のあった、ドイツでNo.1のホテルにて。ドイツでは、ある一定以上のランクのホテルでは、夜のうちに部屋の扉の前に靴を出しておくのと磨いてくれる、という無料のサービスがあります。(普通のホテルだったら、階段の踊り場に靴磨き機が置いてあるので、自分で磨けるようになっています。)試しに出してみました。翌朝、写真のように、靴袋に包まれた状態で、トレイに乗って、「私が磨きました」のサイン入りカードとともに返ってきた靴は完全に「別の靴？」と思うほど隅々までピカピカでした。靴磨きでこんな感動したのも初めての経験でした。☺(もちろん靴磨きだけではなくて、このホテルでの滞在中、何から何まで素晴らしかったのは言うまでもありません。)

急に脱線して難しい話になりましたので、本題に戻ります。
慣れるまで、なんだか不思議に思えた、こんな挨拶も…。

◆Mahrzeit! (マールツァイト!)

直訳すると「食事」なのですが、いつ使うかという、まあ学食とか会社の食堂とか、要は知っている同僚とか友達に使うのですが、Mahrzeit!と言われたら、Mahlzeit!と声を掛け合う感じなのです。でも、なんだか口ぐちに「ごはん!」「ごはん!」って騒いでいるみたいでなんだか変ですが、じつはこれ、もともとは、Ich wünsche Ihnen eine gesegnete Mahlzeit. 訳すと「祝福された食事を!」みたいな意味合いなのだそうなのですが、どういうわけか、省略された結果、最後のMahlzeitだけ残って、今に至るのだそうです。むむー。省略しすぎで、外国人には、よく分かんのですよ。☺

あとは、Guten Apatit! (グーテン・アペティート) という言い方も「おいしく召し上がれ」という意味で、家での食事とかレストランで使われます。(返答は、一緒に食べる場合はGuten Apatit!, お店などでウェイターさんとかに言われた場合はDanke! です。)

◆Feierabend (ファイアーアーベント)

仕事が終わった後とか、時間帯としては夕方の挨拶。これもまた日本語にも同じような表現がないのですが、無理に訳すと「仕事が終わった!」とか「さようなら」とか「お疲れ様」みたいな意味合いになるんです。これもまたFeierabendと言われたらFeierabendと返します。夕方の閉店前にスーパーに行ったりするとレジの人なんかがこの挨拶してくれますよ。

なんだかこんな日常の挨拶を試してみるだけで、相手の態度や扱いが変わってきます。

ただの観光客から、一歩日常に入っていくというか、前進するというか、時にはたった一言の挨拶が魔法の言葉になるかもしれません。

そう難しくないので、旅行に行かれる際には、是非その現地の言葉を覚えて一つなりとも使ってみてください。

(コツは、恥ずかしがらず、相手の目を見て、堂々と発音することです)